

## 人権教育に関する特色ある実践事例

### 基準の観点

各教科等における特徴的な指導の実践事例

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

鹿児島県霧島市

#### ○学校名

霧島市立隼人中学校

#### ○学校のURL

<http://www.mct.ne.jp/users/hayatoty/>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】各学年7学級 【特別支援学級】2学級 【合計】23学級

#### ○児童生徒数

【全生徒数】789人（平成24年11月8日現在）  
（内訳：1年生250人 2年生261人 3年生278人）

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校の教育目標】

○自ら学ぶ意欲と社会に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、豊かな心を持ち心身ともに健康でたくましく生きる生徒を育成する。

##### 【人権教育に関する目標】

○人権尊重の精神に基づいて、自他を大切にし、あらゆる差別を許さず、主体的に行動できる生徒を育成する。

##### 【研究テーマ】

○自らを律し、他者と協調し、感性や豊かな心を育てるための人権教育

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

##### ○進路を保障する教育活動の推進

・基礎・基本を定着させるため、学習指導法の改善を図る。

##### ○人権問題から学ぶ学習の推進

・生徒の生活課題が人権問題と重ねられ、自分と人権問題との関係を認識できる学習を創造する。

##### ○互いに認め合える仲間づくりの推進

・日常生活を通して、悩みや喜びを共有・共感する心を育成する。  
・自他の命を尊重し、自信と誇りをもった生徒の育成を図る。

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### ◆ 日常の授業における子ども同士の学び合いを通しての自己理解、他者理解

##### 【取組のねらい、目的】

- 相手を思いやる心
  - 互いを認め合い、共に生きていこうとする態度
  - 自他の生命や人権を尊重する心
- など、「生きる力」としての豊かな人間性や社会性を育む。

##### 【取組を始めたきっかけ】

本校は、職員研修等で職員の指導力向上を目指したり、生徒への人権啓発を工夫したりすることを通して、これまでも人権教育に力を入れて取り組んできた。しかし、思いやりのない言葉で他者を傷付けるなど、他者の心に寄り添えない言動をする場面が見られた。また、特別活動や総合的な学習の時間などで人権に関する学習をするものの、その学習が表層的なものになり、人権感覚の高まりや具体的な態度、行動の育成には至らなかった場面もしばしば見られた。

そこで、人権感覚を高めていくために、特別活動や総合的な学習の時間において人権に関する学習をより充実させるとともに、教科や道徳の時間の中で、自分を見つめながら他者と共に学ぶ合うよさや他者の考えや価値観に触れる意義を感じさせることにした。

##### 【取組の内容】

###### I 道徳の時間における取組

- 1 生徒が問題意識を高め、意欲的に考えを深めることができる導入の工夫
  - (1) 生徒の心を揺さぶり、考えを深める意義が感じられる資料の工夫
  - (2) 自発的に考えを深めようとする意欲の高まりを目指し、体験的な活動を問題設定に生かす工夫
- 2 生徒が互いの道徳的価値に触れ、自らを見つめ直す場の工夫
- 3 生徒が自己の変容を実感し、生活の中で実践しようとする意欲を高める評価の工夫

###### II 各教科における取組

- 1 生徒が主体的に追究活動に取り組むことができるための工夫
  - (1) 生徒一人一人の問題意識を引き出す工夫
  - (2) 問題解決的な学習を展開するための基盤づくり
  - (3) 生徒一人一人に応じた学習指導
  - (4) 学習教材の工夫
- 2 生徒が他者との関わりを深め、相互啓発する学び合いの場の設定
  - (1) 「学び合いの場」の活性化
  - (2) 「学び合う姿勢」を大切にする学習集団の育成
- 3 他者に関わる学習活動を通して、自分の変容を実感できる評価の工夫

### Ⅲ 道徳の時間における取組の実践例

#### 1 主題名

「強い意志」「思いやりの心」「適切な言動」

※ 各学級の実態に応じた主題を設定した。

#### 2 資料名

「花に寄せて」（東京書籍「明日をひらく」より）

#### 3 資料について

主人公の星野富弘さんは中学校の体育教師になって二か月後、部活動の指導中に誤って鉄棒から落下し、生命の危機に直面しながらも、なんとか一命をとりとめた。しかし、この事故により手足の自由を失ってしまう。資料では、極めて重い障害を背負いながらも、周囲の人の支えにより、様々な葛藤を乗り越え、生命ある限り、懸命に生き続けようとする星野さんの姿が描かれている。母親をはじめとする周囲の支え、困難に負けずに強く生きようとする星野さんの姿を通して、困難を乗り越えられたのはなぜかということや、主人公を励ました声掛けの在り方等を考えさせたい。

#### 4 学習目標

人は困難に直面しても、それを乗り越えられる強さをもっていることを知るとともに、互いに支え合って生きようとする態度を培う。

#### 5 授業設計の視点（人権尊重の視点）

(1) 生徒が問題意識を高め、意欲的に考えを深めることができる導入の工夫

事前アンケートの集計結果を紹介したり、主人公の作品等を提示したりすることにより、学習への興味・関心を喚起する。

(2) リアリティを高める模擬体験や役割演技などの工夫

実際に主人公と同じような体験をさせて心情に迫らせたり、ロールプレイングで様々な立場を体験させたりすることで、他者の気持ちを思いやった声掛けや適切な対応の仕方などを理解させる。

(3) 生徒にじっくりと考えさせ、考えや意見を引き出すことができる場の設定

小集団や全体で話し合う場面の前に、個人で考えをまとめる時間を十分に確保し、その間に机間指導等で適切な支援を行う。

(4) 単位時間での自分の考えの変容を実感することができる振り返り活動の工夫

授業を通して生徒自身が変容を実感することができるような評価に取り組む。

#### 6 授業の実際

以下は、本校の道徳における研究の視点に沿って、授業の実際をまとめたものである。

なお、各学級の実態に応じて指導方法の工夫・改善を図ったため、学習活動は学級によって異なる場合がある。

(1) 生徒が問題意識を高め、意欲的に考えを深めることができる導入の工夫

ア 星野さんの描いた絵や文字を紹介し、興味・関心をもたせる導入

絵を提示しながら「どんな人がこの絵を描いたのだろう」と発問し、その後星野さんのプロフィールを紹介した学級

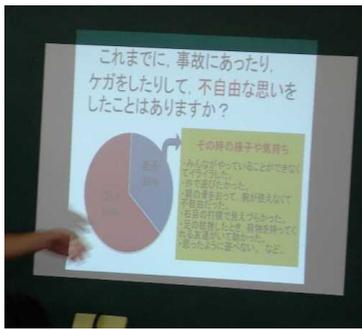
と、星野さんのプロフィールを紹介した後に、絵を見せる学級

があった。どちらの学級でも、生徒は強い興味・関心を示した。



イ 事前のアンケート結果を提示し、互いの思いや考えを知り、問題設定につなげる導入

(ア) スクリーンで掲示



(イ) プリントにまとめて配布

- 挫折感を味わった時の気持ちは・・・
- 野球に向いてないかな
  - 出場できなくてくやしかった
  - いろいろな人に迷惑をかけた
  - 大会に出られなくて希望を失った
  - がんばってきたことが嫌になった
  - がんばってきたことが面倒くさくなった
  - やる気が出なくなった

問題設定につながった項目をスクリーンにそのまま掲示したり、プリントにまとめて配布したりすることで、授業中にいつでもお互いの思いや考えを再確認し、知ることができるようにした。

生徒一人一人の経験や気持ちを知ることによって、本時の学習問題が明確になり、追究への動機付けを確実に行うことができたと考える。

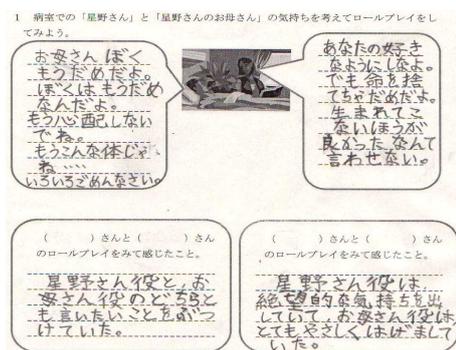
(2) 生徒が互いの道徳的価値に触れ、自らを見つめ直す場の工夫

各学級で作成したワークシートに沿って、一つ一つの問題を考えさせた。個人→グループ→全体という形態で、個人に考えさせる時間を十分に確保した後に、学級全体の意見や考えを共有する時間をもった。個人の場合もグループの場合も、積極的に発表する姿が見られた。また研究の内容に沿って、体験的な活動を取り入れる学級が多かった。

ア ロールプレイングの導入

(ア) 星野さん、母親、観察者の3人1組に分かれての実施

実際に、それぞれの立場に立って声掛けを行わせたところ、ワークシートに記入した言葉を真剣に伝え合う様子が見られた。生徒は、「実際にその場面を想像することができて、星野さんの気持ちが分かってきた。」「それぞれの立場での気持ちが分かった。」などの感想をもっていた。



【グループで学習している様子】

【3人1組で活動した学級のワークシート】

どの学級でも、活動後に感想を記入させ、それを全体の場で発表させた。

【ロールプレイング後の生徒の感想】

- 聞くのは簡単だけど、いざ自分で考えたことを言うのは難しかった。一つの設定でも人によって考え方がちがうのはとても深いと思った。
- 感情を込めてその人になりきらないと言葉が出ないけど、なりきってみると言葉がど

んどん出てきて、星野さんもこんな気持ちだったのかなと少し思った。演じるのも一つの勉強としていいと思う。

(4) 部活動の大会前に自分がけがをしたという設定での実施

実際に自分がけがをし、中学校最後の大会に出場ができなくなったという設定で、ロールプレイングを実施した。

具体的には、4人1組になり、骨折した生徒、友人、参観者に分かれて実施した。より身近に起こりうる事象を設定したことで、生徒は真剣に取り組むことができた。また、どのような声掛けがうれしいかを知ることができ、アサーティブな声掛けの仕方についても学ぶことができた。

【アサーティブな声掛けの例】

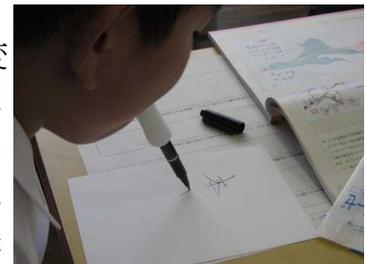
- 大会に出られなくても、最後まで一緒に活動しよう。
- 今までがんばってくれたからここまでやれたんだ。少し休憩してよ。
- ぼくが君の気持ちを引き継いで、君の分までがんばってくるよ。

【非アサーティブな声掛けの例】

- こんな大事なときに、どうしてけがなんかするんだよ。
- 今までのがんばりが水の泡だね。
- 君がいなくても勝てるから大丈夫だよ。

イ 星野さんの立場を疑似体験させるための活動

口で文字を書いたり絵を描いたりすることがどれだけ大変なことかを実感させるために、星野さんと同じように口にペンをくわえて画用紙に文字を書く活動に取り組んだ。多くの生徒は、「星野さんの話を聞く前は、口で字を書くことは恥ずかしいと思ったけど、星野さんの話を聞いて、口で字を書くことはすごいと思った。」など、星野さんの努力に敬服するような感想に変化してきた。



この活動を通して、星野さんの心情を想像しやすくなり、生徒は問題解決に向けて意欲的に取り組むことができた。

ウ 話し合い活動の充実

互いの意見を自由に論じ合うことができる小集団での話し合いの場をもち、そこで出された意見を集約して全体に発表した。

学級によっては、グループで意見をまとめる活動を常時取り入れている学級、短冊に意見を書かせるブレインストーミング的な手法からカード操作による発想法につなげた学級もあった。以下はその事例である。

(ア) グループでの話し合い活動

この学級では「展覧会を見た人々の言葉の中には、どのような気持ちが込められているのだろうか。」という発問に対して、まずは個人で考える時間をとり、その後、グループで一つの考えにまとめる時間をもった。各グループの代表者がまとめた考えを黒板に書き、それに対して教師がコメントを加えていった。

(イ) ブレインストーミング的手法を用いた話し合い活動(全体でカード操作による発想法も実施)

この学級では、「なぜ主人公はあきらめることなく、最後まで努力し続けたのか」という発問に対して、4人グループを作って意見を出し合わせた。出された意見は短冊に書き、

それを黒板に掲示した。

意見を短冊に書かせることで、より多くの意見が出され、それをカード操作による発想法を用いて分類した。



「今」に幸せを見出せたから。口で字が書いて、自分が生きていくという実感が出てきたから。文字や絵がかけられる希望があったから。できないかと思っていたこと

「希望の光がいつか来る」と思っているから。あきらめなくなったら、できるあきらめなくなると。病院の中には他にも頑張った人がいるのはいくらもいるから。あきらめなくなると。あきらめなくなると。あきらめなくなると。

生きる喜び・希望

強い意志

他にも「母の愛情」や「周囲の人々の温かい励ましや協力」などが挙げられた。

(3) 生徒が自己の変容を実感し、生活の中で実践しようとする意欲を高める評価の工夫

それぞれの学級で効果的なまとめを工夫した。

ア 感想記入

生徒の感想文が学習のねらいに沿って記入されているのか評価するとともに、事前のアンケートと照らし合わせて、生徒の変容を捉えることができた。

〈生徒の感想〉

- 今までは失敗をしたり、けがをしたりしてしまって、外に遊びにも行けなくて何もする気になれなかった。これからは、失敗やけがなどをしても、今やれることをやって楽しく過ごし、いろんなことにチャレンジしたいです。
- 今までは毎日を何気なくただ過ごしていたし、自分は一人で何でもできるかと思ったり、周りの人に投げやりな言葉をかけてしまったりしていたが、これからは、毎日楽しく一生懸命生きたい。たくさんの人に支えられているので、周りの人をもっと大切にしたいと思った。

〈教師の評価〉

- 不自由な生活の中では焦燥感や絶望感が先に立ってしまうが、星野さんの絵を見て、強く生きていく姿に感動した大学生と似た心の動きが少しみられ、自分の生活の中で成長することはまだあると思っているようであった。

イ 主人公の母親へのメッセージ

ロールプレイングを実施した学級では、最後に主人公の母親へのメッセージを書くという活動を行った。ロールプレイングに取り組んだことで、一番身近なところで苦勞した母親の気持ちを想像することができていた。

- 「息子さんの気持ちに寄り添うことは大変だと思いますが、息子さんは、自分が描いた絵を見て喜んでみなさんの姿を見て元気になれると思うので、苦しいときもあると思いますが、これからも息子さんを支え続けてください。」
- 「元気だった自分の息子が、突然ちょっとしたことで首から下が動かなくなって驚かれたことと思います。でも、息子さんのために、入院しているときも一番の支えになられたと思います。今までおつかれさまでした。」

ウ キーワードを参考にした振り返り

キーワードを参考に、授業で考えたこと、思ったことをまとめさせた。具体的には、キーワードとして「星野富弘」「生きる」「希望」「絶望」「事故」「絵」を挙げた。

- 星野富弘さんは、生きる希望をなくし、絶望していたが、自分にも「絵」が描けると知って絶望が少しの希望に変わった。人は何か一つでも希望を見つければ、がんばることができると思いました。
- 星野富弘さんが絶望の淵から文字や絵をかくことを見つけて希望も見つけたことを知って、私もこんな人になりたいと思った。
- 絶望に陥っても、希望の光を見つけ、一生懸命に生きている星野さんはすごいと思った。生きる力って本当にすごいと思った。

エ 星野さんの絵の再掲示

最後に、星野さんの絵を再度掲示して、絵や言葉に注目させ、余韻をもたせた終わり方をした学級が多かった。

特に、星野さんの母親に対する思いが表れている作品を紹介する学級が多かった。

オ 次時にVTR視聴

資料について本時で焦点化、自覚化、意欲化をさせた後、さらに星野さんのことを知ってもらうために、次時に星野さんに焦点をあてたVTRを視聴させた。



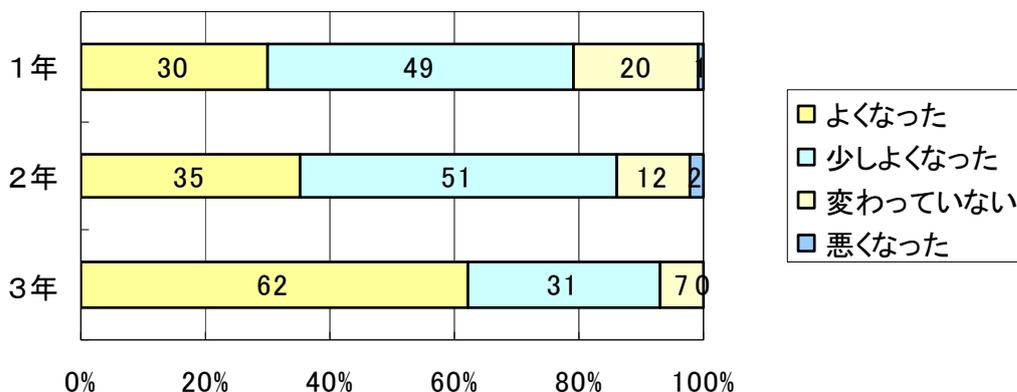
〈生徒の感想〉

- 資料では、星野さんや家族、周りの人たちの大変さや苦労していることなどはあまり書かれていなかったけど、VTRでは、星野さんや周りの人たちの大変さなどがとてもたくさんあって、わたしが思っていた以上に大変なのだとしてく伝わってきた。でも、大変な中でも楽しいことを見つけて一生懸命生きていることに感動した。

#### 4. 実践事例の実績、実施による効果

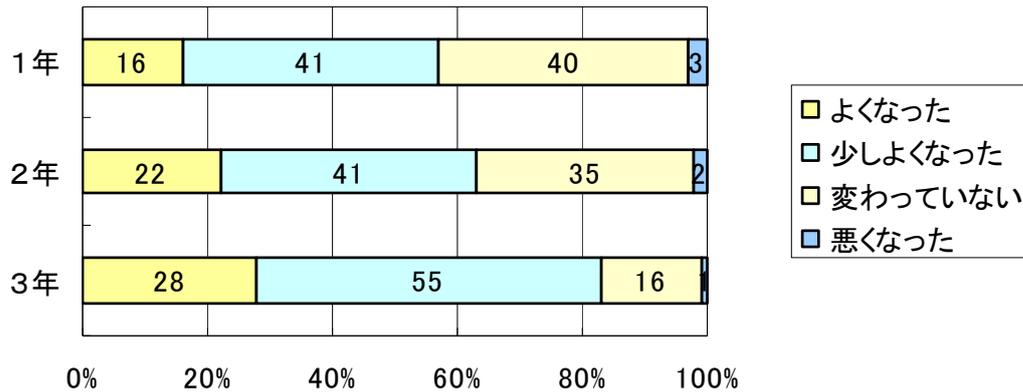
【取組の実績】

- 人権教育に関するアンケート（対象：本校生徒 平成23年10月実施）  
「一年前の自分自身と比較して」  
ア 学級の仲間と助け合いながら学習活動に取り組めるようになったか。

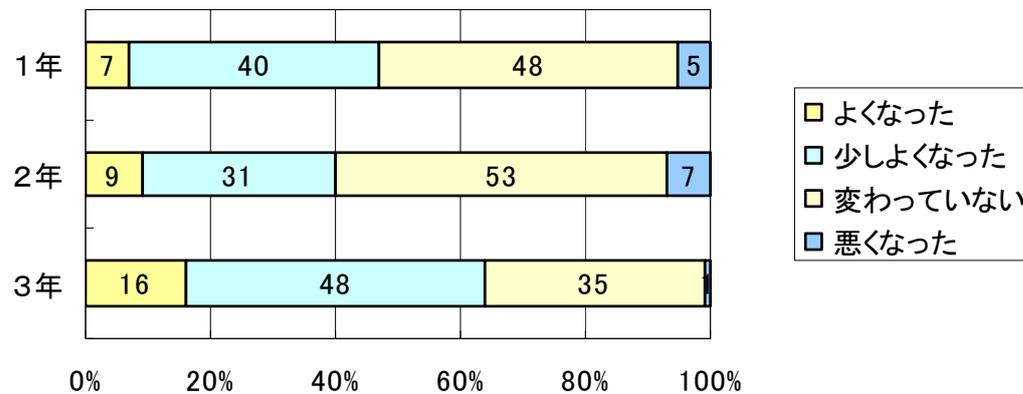


各教科等で、共に学び合う活動を実施したことにより、1年前と比べ「よくなった」「少しよくなった」と感じている生徒が多い。特に3年生は、これまでの学習形態や活動との違いを感じており、9割以上がよくなったと感じている。

イ グループ活動を通して、自分の考えや意見に自信がもてるようになったか。



ウ 自分は周りの人に認められていると感じるようになったか。



「イ」では、2年生で6割以上、3年生で8割以上の生徒が、以前よりも自分の考えや意見に自信がもてるようになってきている。これはグループ活動において、他者の考えや価値観に触れ、互いのよさを認め合うことで、自分の考えや意見も受容されていると感じている結果であると考えられる。

「ウ」は、変化を感じていない生徒が多いが、以前よりも周りの人に認められていると感じている生徒も半数程度いる。

## 5. 実践事例についての評価

各教科等で人間関係の育成を意図した活動を指導過程に位置付けて実践を進めることができた。その結果、生徒は自己理解や共感的な他者理解を深め、他者との関わりの中で学ぶことのよさを実感することができた。具体的には、友達と協力して、学習活動に自信をもって生き生きとした表情で取り組む場面が多く見られるようになった。このことは、互いのよさを認め合い、よりよく生きていこうとする生徒を育むことにつながると考える。

課題として残ったことは、生徒が具体的な態度や行動を伴った実践力を身に付けることができるように、今後も継続した取組が必要であるということである。よりよい人間関係を育成したり、自他を大切にする心を養ったりするためには、他者との関わりの中で学習させる方法を工夫・改善したり、生徒一人一人のよさを生かす指導過程を見直したりしていくことが大切である。

また、家庭や地域においても、人権教育に対して正しく理解することが大切である。家庭や地域が人権教育について理解を深め、問題意識を高くもつためには、啓発活動を継続して行う必要がある。そのためには、学校職員が人権教育に対する研修を絶えず積んでいかななくてはならない。そして、学校・家庭・地域がそれぞれの役割や責任を確実に果たし、一体となって人権教育を推進していくことが大切だと考える。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

霧島市立隼人中学校

「積極的な自己理解」と「共感的な他者理解」をキーワードとし、「共によりよく生きる生徒」の育成を目指して教育活動を推進している事例である。具体的には、教科や道徳では「理解」に、特別活動や総合的な学習の時間では「実践」に重点を置き、双方の関連を図ることで、知的理解と人権感覚を結びつけ、実践行動力を育成しようとしている。

また、生徒の自発性や主体性、問題解決力、自己変容を自覚する自己評価力等を意識して、日々の授業や教育活動を工夫している。ロールプレイやアサーショントレーニングなどの手法を積極的に取り入れ、体験的な学習のサイクルを実践する中で、生徒に学ぶ楽しさを味わわせるとともに、自分の在り方を問うことに価値を見いださせている。

進路保障と学習保障の視点から生徒の未来を見据え、一人一人を大切にした授業や様々な教育活動を工夫し、組織的・計画的に推進している教職員の熱意が窺える事例である。